

研修プロセス表；オリエンテーション期

オリエンテーション期

【一般目標】

古賀総合病院の概要や理念、社会人として医療人として必要な基本的素養を獲得する。
また、オリエンテーション期を通して基本的な診療を行うための知識、態度、技術を獲得する。

【行動目標】

- a. 病院の理念を述べることができるようになる
- b. 職務規程を理解し、社会人として、同心会職員として模範的な行動を取ることができるようになる
- c. 保険診療に必要な最低限の知識を獲得する
- d. 診療録作成などに関する規定、方法を学ぶ
- e. 他職種の業務を見学、体験し、他職種連携の基礎を学び、各種オーダーなどの基本を学ぶ
- f. 医療安全の基礎を学び、即時報告を独力で出せることができるようになる
- g. 標準予防策をはじめとした感染対策の基礎を学び、適切に実施できるようになる
- f. 地域医療連携病院の役割を知り、適切な医療機関間の連携方法を学ぶ
- g. 介護保険に関する最低限の知識を獲得する
- h. 医師の一般的な業務（入院、外来など）の流れを体験する
- i. 一般的な手技を行うことができるようになる
- j. 診療を行うために必要な基本的な事項を学び実践することができるようになる
- k. 院内急変などに対応するための基本的な行動を起こすことができる

【方略】

オリエンテーション期に、以下のプログラムを通して上記目標到達をはかる

（※本方略は、すべてを必ず実施するわけではなく、各部署の状況、日程などをかんがみて調整を行う）

- ・新入職員（全職種対象）オリエンテーションに参加する
- ・6-core competencies、RIME-model（※）関連の講義を受講する（特に Professionalism 関連）
- ・各部署の講義を受講する（医事課、医療情報管理課、医療安全管理室、感染制御室、地域医療連携室）
- ・各部署の見学・講義を受講する（薬剤部、臨床検査部、地域医療連携室、ME 技術部、放射線技術部、栄養管理部、リハビリテーション部）
- ・看護実習（病院日勤／夜勤、訪問）を行う
- ・指導医・後期研修医のシャドーイングを行う
- ・各種手技の実習を受講する（早朝採血実習、縫合など）
- ・基礎的な診療関連講義を受講する（病歴取得、身体診察、カルテ記載、プレゼンテーションなど）
- ・特異的な診療関連講義を受講する（心電図、レントゲン、輸血、輸液、文献検索/EBM など）
- ・ACLS を院内開催し、初期研修医は受講する
- ・オリエンテーション初期に、各研修医や指導医などへ研修手帳、各科シラバス、週間スケジュール表、研修プロセス表などを配布し、利用方法を教授する

【評価】

360 度評価（特に講義・見学実施した各部署から）

オリエンテーション期振り返りテストをオリエンテーション期終了前後に実施する。

（筆記試験、実技試験、シミュレーションなどを用いたテストだが、基本的には形成的評価を行う）

※オリエンテーション自体の評価に関して

- ・オリエンテーション期には、専用の振り返りシートを毎日記入させる
- ・オリエンテーション終了後に、研修管理センターから各部署へ改善のためのヒアリングを行う
- ・受講者、各部署からのフィードバックを元に次年度のオリエンテーションのスケジュールや内容について研修管理センターで協議し、改善を図る。

※ 6-core competencies

専門職に必要な能力（コンピテンシー）のうち、重要な項目を集めたものを「コア・コンピテンシー」と言い、ACGME（米国卒後医学教育認定評議会）が示したものを以下に示す

Competency	小項目(例)
患者の診療	・問題点の整理:情報収集、医療面接、身体診察・・・ ・患者マネジメント:診療プラン作成、コンサルト・・・ ・手技:手技の実践、応用
医学知識	・診療に必要な知識 ・診断や手技に関する知識・・・
実践に基づく学習・改善	・フィードバック ・自己学習 ・EBMの手法を用いて臨床疑問を調べる
コミュニケーション	・对患者:患者自身、家族とのコミュニケーション ・院内スタッフ:多職種、指導医以外の医師と
プロフェッショナリズム	・プロとしての自覚:服装、遅刻、他者への敬意・・・ ・リーダーシップ ・仕事への責任感:書類、サマリ業務
システムに基づくケア	・院内システムの利用:電子カルテ、委員会・・・

※ RIME model

学習者が成長する過程において、その途中の成長モデルの頭文字をそろえたもの

Reporter	起こった事象を報告することが出来る（ハウレンソウ）
Interpreter	解釈し、判断することが出来る
Manager	自身の解釈、判断に基づき行動を起こすことが出来る
Educator	自分が起こした判断、行動について他人に教えることが出来る

【一般目標】

common disease を含む一般的な内科疾患を理解・経験し、適切な診断プロセスを経てケアプランを立案、実施することができるようになる

【行動目標】

- a. 入院患者を受け持った際に指導医とともに初期ケアプランを立案することができる
- b. 安全で明確な入院時指示を出すことができる
- c. SOAP 形式でカルテを記載することができる
- d. POS (Problem Oriented System) に則り患者の問題点を整理することができる
- e. 適切な報告・連絡・相談を行うことができる (RIME model のうち、まず Reporter を目指す)
- f. 診断・治療を行うために必要な基本的知識を獲得する
- g. 患者や患者家族、医療スタッフと適切な関係性を築くためにコミュニケーションを取れる
- h. 院内外の規則や手順を理解し、標準的な医療行為を行う事が出来る
- i. 退院時要約などの書類を遅滞なく作成、提出することができる
- j. 身だしなみに注意を払い、職員・来院者に挨拶を行う事ができる

【方略】

- ・ 上級医、指導医と共に、入院患者や外来患者の診療を行う
- ・ ベッドサイドティーチング、内科カンファランス、各科カンファランス、朝の briefing や夕の指導医振り返りなどを通して適切な問診、診察、診療推論などの方法を指導医から学ぶ
- ・ カルテ記載、退院時要約などを指導医・上級医の添削を受け記載する
- ・ 毎日、TPO に併せたプレゼンテーション技法を用いて指導医・上級医に患者の報告を行う
- ・ 院外カンファランスや講習会などの Off the job training に積極的に参加する
- ・ 指導医、メンターなどからフィードバックを受け、自省を促し自己改善に取り組む
- ・ 経験すべき症例のリストをこまめにチェックし症例・病態の経験を促す

■ 研修科

- ・ 総合診療科（導入期）
- ・ 消化器／神経／肝臓
- ・ 腎臓／血液
- ・ 循環器／内分泌代謝

【評価】

360 度評価

メンターとの振り返り

指導医・上級医からのフィードバック

内科カンファランスでのフィードバック

EPOC による評価

【一般目標】

common disease を含む一般的な外科疾患を経験し、適切な診断プロセスを経てケアプランを立案、手術を含む治療介入の適否判断を行うことができるようになる

【行動目標】

- a. 入院患者を受け持った際に指導医とともに初期ケアプランを立案することができる
- b. 周術期患者の適切な管理、ケアプラン作成を指導医とともに立案、実行することが出来る
- c. SOAP 形式でカルテを記載することができる
- d. POS (Problem Oriented System) に則り患者の問題点を整理することができる
- e. 適切な報告・連絡・相談を行うことができる (RIME model のうち、まず Reporter を目指す)
- f. 診断・手術・手術期管理を行うために必要な基本的知識を獲得する
- g. 患者や患者家族、医療スタッフと適切な関係性を築くためにコミュニケーションを取れる
- h. 院内外の規則や手順を理解し、標準的な医療行為を行う事が出来る
- i. 退院時要約などの書類を遅滞なく作成、提出することができる
- j. 身だしなみに注意を払い、職員・来院者に挨拶を行う事ができる

【方略】

- ・ 上級医、指導医と共に、入院患者や外来患者の診療を行う
- ・ ベッドサイドティーチング、外科カンファランス、消化器カンファランス、朝の briefing や夕の指導医振り返りなどを通して適切な問診、診察、手術などの方法を指導医から学ぶ
- ・ カルテ記載、退院時要約などを指導医・上級医の添削を受け記載する
- ・ 外科回診（包交も含む）に付きそい周術期管理に必要な知識・技能を獲得する
- ・ 内科を始めとする他科との連携を行う場面を経験する
- ・ 指導医、メンターなどからフィードバックを受け、自省を促し自己改善に取り組む
- ・ 経験すべき症例のリストをこまめにチェックし症例・病態の経験を促す

■研修科

- ・ 外科

【評価】

360 度評価

メンターとの振り返り

指導医・上級医からのフィードバック

外科カンファランス、消化器カンファランスでのフィードバック

EPOC による評価

研修プロセス表；精神科

【一般目標】

common disease を含む一般的な精神科疾患を理解・経験し、適切な診断プロセスを経てケアプランを立案、実施することができるようになる

【行動目標】

- a. 入院患者を受け持った際に指導医とともに初期ケアプランを立案することができる
- b. 精神疾患を持つ患者の医療面接を経験し、症状について問診を行う事ができる
- c. 精神症状、評価について適切にカルテ記載を行うことができる
- d. 長谷川式簡易評価スケールなどを用いて簡単な評価を行うことができる
- e. 経験すべき疾患についての病態を理解している
- f. 修正型電気けいれん療法の実施に立ち会う
- g. 向精神薬について（適応、効果、副作用、相互作用など）を理解している
- h. 軽度の不眠、不安、せん妄に対して投薬治療を行う事ができる

【方略】

- ・ 上級医、指導医と共に、入院患者や外来患者の診療を行う
- ・ カルテ記載、退院時要約などを指導医・上級医の添削を受け記載する
- ・ 病棟カンファランスに参加し、意見交換を行う
- ・ 身体科からのリエゾンに指導医と同行しベッドサイドティーチングを受ける

【評価】

360度評価

メンターとの振り返り

指導医・上級医からのフィードバック

内科カンファランスでのフィードバック

EPOCによる評価

研修プロセス表；産婦人科

【一般目標】

日常診療で遭遇する妊娠・分娩や、common な産婦人科疾患に対応するために必要な基本的診療能力を習得する

【行動目標】

- a. 患者の不安、羞恥などに配慮した医療面接を行うことができる
- b. 産婦人科診療に必要な基本的診察法を指導医の直接指導のもと行う事が出来る
- c. SOAP形式でカルテを記載することができる
- d. POS (Problem Oriented System) に則り患者の問題点を整理することができる
- e. 産婦人科診療に必要な検査（妊娠反応や超音波検査など）を指導医の指示のもと行う事ができる
- f. 産婦人科疾患の診断、治療に必要な基本的な知識を獲得する
- g. 患者や患者家族、医療スタッフと適切な関係性を築くためにコミュニケーションを取れる
- h. 院内外の規則や手順を理解し、標準的な医療行為を行う事が出来る
- i. 退院時要約などの書類を遅滞なく作成、提出することができる
- j. 身だしなみに注意を払い、職員・来院者に挨拶を行う事ができる

【方略】

- ・ 上級医、指導医と共に、入院患者や外来患者の診療を行う
- ・ 正常分娩や帝王切開術、その他婦人科手術に助手として参加する
- ・ NICU の管理を指導医とともに経験する
- ・ ベッドサイドティーチング、を通して適切な問診、診察などの技術、知識を指導医から学ぶ
- ・ カルテ記載、退院時要約などを指導医・上級医の添削を受け記載する
- ・ 院外カンファランスや講習会などの Off the job training に積極的に参加する
- ・ 指導医、メンターなどからフィードバックを受け、自省を促し自己改善に取り組む
- ・ 経験すべき症例のリストをこまめにチェックし症例・病態の経験を促す

■研修科

- ・ 産婦人科

【評価】

360度評価

メンターとの振り返り

指導医・上級医からのフィードバック

EPOCによる評価

研修プロセス表；地域医療

【一般目標】

- ・ common disease から慢性疾患管理外来、保健予防活動など多岐にわたる診療を経験する
- ・ 病診連携、介護福祉、行政などとの連携を通して医療・福祉・保健サービスを理解する

【行動目標】

- a. common disease の初期対応、マネジメントを行う事ができる
- b. 糖尿病や高血圧症などの慢性疾患の一般的な定期管理、療養指導を行う事ができる
- c. 訪問診療の経験を活かして、生活の場を考慮したケアプランの作成を行う事ができる
- d. 訪問看護、介護サービスなどの、在宅療養のために利用可能な手段を理解する
- e. 在宅終末期患者のケアの概要を理解することができる
- f. 介護施設の訪問診療などを経験する
- g. 入院施設への患者紹介を通して病診連携の役割を理解する

※ 連携先病院によって、研修出来る範囲が異なる。

【方略】

- ・ 指導医と共に外来新患患者、定期通院患者の診療を行う
- ・ 指導医とともに訪問診療を行う
- ・ 機会があれば、在宅調整会議、サービス調整会議などの参加を行う
- ・ 介護保険主治医意見書の作成を行う
- ・ 機会があれば、地域住民への医療懇談会や健康相談会などに参加する

【評価】

指導医からのフィードバック

EPOC による評価

研修プロセス表；選択

【一般目標】

- ・プライマリケアを実践するために必要な、当該科における知識、技術、態度を獲得する

【行動目標】

- a. プライマリケアの場面で遭遇する当該科の **common disease** について理解し、初期対応を行う事ができる
- b. 専門医へコンサルトすべき状態を判断し、対応する事ができる
- c. 当該科に特徴的な診察方法、検査方法を経験する

【方略】

- ・上級医、指導医と共に外来、入院診療を行う
- ・ベッドサイドティーチング、カンファランスを通して適切な知識、技術、態度を獲得する
- ・カルテ記載、退院時要約などを指導医・上級医の添削を受け記載する
- ・院外カンファランスや講習会などの **Off the job training** に積極的に参加する
- ・指導医、メンターなどからフィードバックを受け、自省を促し自己改善に取り組む

■選択可能な科

古賀総合病院：皮膚科、整形外科、泌尿器科、（耳鼻科、眼科）

外部協力型病院：小児科

【評価】

360度評価

メンターとの振り返り

指導医からのフィードバック

EPOCによる評価